

## 平成29年度秋田県総合政策審議会 第1回成長産業振興部会 議事録要旨

1 日 時：平成29年7月18日（火）午後3時40分～午後5時

2 場 所：秋田県教育会館「B会議室」

3 出席者

◎成長産業振興部会委員

（審議会委員）

株式会社デジタル・ウント・メア 代表取締役社長 岩根 えり子

株式会社三栄機械 代表取締役社長 齊藤 民一

株式会社タカヤナギ 代表取締役社長 高柳 智史

秋印株式会社 代表取締役社長 三浦 征善

（専門委員）

株式会社ケイ・イノベーション代表取締役 喜藤 憲一

株式会社セーコン代表取締役社長 鈴木 浩子

□県

産業労働部 部長 水澤 聡

次長 石川 聡

〃 次長 佐藤 明

〃 食品産業振興統括監 鈴木 昌明

〃 新エネルギー政策統括監 菅原 喬

他 各課室長 等

4 水澤産業労働部長あいさつ

今年度の部会では、3期プランについてご審議いただくことになるが、これまで、1期、2期とプランを進めてきて、それなりに成果を挙げてきた部分もあるが、未だ課題として残っている部分もある。

3期プランについては、残っている課題の解決とともに、大きくクローズアップされている人口減少問題についても産業振興の面から考える必要がある。平成27年度に策定した「あきた未来総合戦略」においても、「産業振興による仕事づくり」を基本目標の1番目に掲げているところであり、今年度の成長産業振興部会の果たす役割は非常に大きいものである。

また、人口減少問題に関して、産業人材の確保という問題も非常に大きなものとなっている。2期プラン策定当時に比べ、有効求人倍率が高くなっている反面、県内中小企業には人材の確保に苦労している企業が多くある。こうした中、賃金や就業環境の改善など、質の高い雇用ということについても議論する必要がある。

人口減少が進む中、人材確保については、産業分野のみの問題ではなく、他の部会においても議論が必要であるので、委員の皆様には、幅広くご提言をいただき、他部会へも速やかに伝え、県全体として改善策を考えていきたい。

#### 5 部会長及び部会長代理について

部会名が変更されたが、所掌事項は継承されるものであることから、引き続き、齊藤委員を部会長、三浦委員を部会長代理として成長産業振興部会を運営することについて承認を得た。

#### 6 齊藤部会長あいさつ

部会の名前が、成長産業振興部会に変わったということで、成長産業とは何かということを考えてみると、一般的に成長産業と言われている分野だけでなく、秋田に合った、新たな産業を創出し、成長産業として育てるということまで踏み込まなくてはならないと考える。

仕事の本質は、快適な暮らしの役割分担である。快適に暮らすための環境は、今までに無かった仕事を造るということから生まれるのだと思う。人口減少が問題となっているが、県外から来る人も増やすためには、快適に暮らせる地域を造ることが大事である。

どんな仕事があれば快適な暮らしができるのかという視点を、中小企業の経営者に気付かせるということが大事である。

中小・小規模事業者の経営者が「気付き」、秋田を盛り上げていけるような提言をいただき、部会をまとめたいと考えている。

#### 7 議事

##### ● 齊藤部会長

それでは議事に入る。

「議事(1)今年度の成長産業振興部会の進め方について」、事務局から説明をお願いします。

##### □ 事務局

・資料1により説明

##### ● 齊藤部会長

進め方の説明があつたが、何か質問はあるか。

特に質問は無いようなので、この進め方で進めたい。

次に、「議事(2)「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」戦略1の取組状況について」、事務局から説明をお願いします。

□ 佐藤産業労働部次長

- ・資料 2-1 により、「主な取組と成果」について説明
- ・資料 2-2 により、「課題と今後の推進方針」について説明

● 齊藤部会長

プランの取組状況について説明があったが、これについて意見を伺いたい。  
三浦委員からお願いする。

◎ 三浦委員

洋上風力発電の支援について、今後計画されている内容について教えていただきたい。  
また、産業の集積促進について、首都圏との近さをアピールした誘致活動は行っているのか。

□ 阿部資源エネルギー産業課長

洋上風力発電については、現在、秋田港・能代港の港湾内及び一般海域内で計画が進められている。

港湾内については、平成 25 年度に港湾内の導入適地を設定し、26 年度に公募を行った。27 年度からは、公募により採択された事業者が具体的に事業を進める上での必要な調査を行っている。目指す事業開始時期は、平成 33 年度頃である。

沖合については、同じく 25 年度に、「港湾洋上風力発電研究会」を立ち上げ、26 年度に候補海域を設定している。候補海域の設定にあたっては、漁業権者や、景観、港湾の利便性に配慮している。この海域においては、能代沖で 45 万 kW、由利沖で 5.5 万 kW の計画である。能代沖については 35 年度、由利沖については 38 年度の事業開始を目指している。

これらについて、直接的な支援は行っていないが、調査に関するデータ提供や、折衝の仲介を行っている。また、必要な港湾の整備は、進捗状況に合わせて取り組んでいるところである。今後は、洋上風力発電の導入とともに、県内企業がいかに参入していけるか、建設、メンテナンス、修理修繕のための部品製造について、マッチングを重点的に進める必要があると考えている。

◎ 三浦委員

他県で、洋上風力発電の計画が進められているところはあるか。

□ 阿部資源エネルギー産業課長

洋上風力発電については、どこも様子見の段階である。調査のための設備、手の届く海域で設備設置事例はあるが、本格的な洋上風力発電設備は国内には無い。計画があるのは、茨城県鹿島沖、新潟県沖である。

□ 出茂産業集積課長

首都圏や中京圏、関西圏における企業訪問の際には、新幹線や航空便、県内の高速道路網を含めて、プレゼン資料において説明している。また、「企業立地ガイド」の様な印刷物においても距離感を掲載している。そのほか、企業立地説明会においても、アクセス面を含めて立地環境を説明している。

◎ 三浦委員

例えば、東京駅や浜松町駅、羽田空港などで、ポスターや吊し広告を用いて近さをアピールすることが必要ではないか。首都圏では、秋田への近さが分かっていない企業も多い。

● 齊藤部会長

理屈っぽく説明するより、感覚的に飛び込んで来る方法は効果があると思う。

□ 出茂産業集積課長

企業訪問や立地説明会の他に、経済の専門誌などで、広告を掲載しているが、今後、更に効果的なPR活動のあり方について検討していきたい。

◎ 三浦委員

青森まで新幹線が伸びたことで、こまちを利用する経営者は多い。こまちの車両内に広告を掲出するのは、効果的だと思う。

◎ 喜藤委員

秋田産業サポータークラブでは、いくつかの検討課題について議論をしているところであるが、5つの成長産業においても、昨年度からこれまで7回議論しているところである。この5分野について、全国的に見て、秋田のポジショニングはどうかという議論が交わされているところであり、自動車は近くに大工場があるが、航空機や情報分野について、違和感を持っているメンバーもいる。秋田で力を入れているということが首都圏に伝わって来ていない。この分野について、どうやって攻めていくのか、産業振興を戦略的にどうするのか考えないと、人も集まらないと思う。

□ 齊藤輸送機産業振興室長

航空機については、集積地である中部地区から遠いことが問題であるという指摘もあると思う。しかし、日本の航空機メーカーが多くの子部品を海外に発注している状況にあり材料を買って、削って、表面処理して、非破壊検査するという一貫工程により完成したものを納めることができるようになれば、海外よりも地続きの国内の方が近く、海外に発注していたものを秋田で受けることが可能である。どれだけ完成度の高いものを納められる

かということが競争力を上げる一番の要素である。

御用聞きのように、一部の工程についてお願いされたりする分には、中部地区の企業が有利であるのは確かであるので、そういうものではなく、県内で、特殊工程を最終の非破壊検査までの一貫工程で受注するようにしていかななくてはならないと考えている。

自動車については、近くに、トヨタ自動車東日本株式会社があって、岩手の金ケ崎と宮城の大衡村に大きな工場があって組立をやっている。そこから見れば、中部は遠いが、奥羽山脈を越えても、秋田の方が近いということで、自動車に関しても、高い完成度があれば十分戦えると考えている。

自動車について、もう一つ重要なのは、昨今、自動車備品の付加価値が変わってきているということである。従来型の金物としての自動車から、自動運転や、EV化など、いろいろなファクターが出てきている。中長期的にはそちらに比重が移っていくと考えられる。そうした中であって、秋田の電子部品は従来から一定の競争力があるほか、県南はカメラなど、光学系機器の生産が強いため、新たな風にうまく乗っていけるように進めていきたい。従来の統計データでは、秋田県における輸送機器出荷額は600億円程度であるが、県独自の調査では、約1,000億円である、この差は、従来の自動車部品の統計には入っていない電子部品などの新たな部品であり、全体の傾向は、こちらの伸びが大きい。

#### ◎ 喜藤委員

航空機や自動車について、他の県も同じようなテーマを掲げている。その中で秋田はどのようなかというのがよく見えない。電子部品、光学系機器はまさに、秋田が強いところであるので、県外に発信していくことが必要ではないか。

#### □ 石川産業労働部次長

情報関連産業については、首都圏の仕事を秋田でできるという側面もあるので、他産業に比べてAターン就職しやすい分野である。実際に、他の県では、地方の方が人材が首都圏に比べ確保しやすいということから進出している企業もある。

全国における県内企業のシェアは低く、県内の需要についても賄いきれていないが、将来的にはこの分野は有望であると考えている。

#### ◎ 岩根委員

企業の誘致について、市町村と連携した新たな支援制度の内容と、企業誘致と女性の活躍の場の創出の関連について教えていただきたい。

#### □ 出茂産業集積課長

市町村と連携した新たな支援制度の創設については、(参考資料-1) 貸工場活用型誘致促進事業ということで、企業立地の際に、新たに工場を建設するより、空いている工場を

取得して、初期投資を抑えたいという動きがあるので、市町村が空き工場を取得又は貸工場を建設する際に、県が支援するという制度である。平成 28 年度に、潟上市が空き工場を取得して、誘致に成功した事例があり、今後、全県に広げていきたいと考えている。

女性の活躍の場の創出については、立地補助金の要件について、新規雇用者のうち 50% 以上を女性とした場合に補助率を加算するという、補助制度の見直している。

● 齊藤部会長

次に、「議事(3)「第3期ふるさと秋田元気創造プラン(仮称)」の方向性について」、事務局から説明をお願いします。

□ 佐藤産業労働部次長

・資料3により説明

● 齊藤部会長

新しいプランの取組の方向性について説明があったが、これについて意見を伺いたい。

◎ 鈴木委員

風力発電設備の導入量について、大きく目標を達成しているようだが、秋田県で生み出す電力の何%を風力発電で賄おうとしているのか、また、現在その何%の状況であるのか教えていただきたい。

秋田県の小学校と中学校のレベルが高いというのは、首都圏においても話題となるが、高校生のレベルはどうなのかと思う。新規高卒者の 34%は県外へ就職している。やはり、優秀な生徒は、県外のネームバリューのある大企業へ就職し、県内企業は、残った生徒を採用している状況ではないか。県内就職する生徒は、純粹で、素直である一方、仕事に対するやる気が感じられず、経営者として不安を覚えることが多々ある。県内就職する生徒にもある程度の職業意識を持って欲しい。

自動車産業について、今後、アシスト機能による自動運転が広がれば、衝突が減り、求められる素材も変わってくると思われるが、対応した素材の開発は進んでいるか。

□ 阿部資源エネルギー産業課長

秋田県の再生可能エネルギー発電能力については、風力発電は全国で約 330 万 kW のうち約 10%で 2 位、地熱発電は、全国で約 52 万 kW のうち、約 8 万 8 千 kW で 3 位、水力発電は、全国約 2,800 万 kW のうち約 30 万 kW で 16 位となっている。

また、秋田県全体の発電設備能力は、約 360 万 kW であるが、このうち約 320 万 kW が風力発電、残りが再生可能エネルギーである。

再生可能エネルギーについての総発電量のデータは持ち合わせていないが、東北電力の

データでは、秋田県における総発電量は、約 140 億 kW、県内の消費電力量は、約 70 億 kW である。

□ 菅原新エネルギー政策統括監

発電したものを秋田県で使うイメージを持たれていると思うが、秋田県で生産したものを売るということもある。秋田で消費される電力は約 70 億 kW であるが、秋田県における総発電量はその 2 倍の約 140 億 kW である。県では、発電設備に投資していただき、その建設や、メンテナンスなどに県内企業が参入することが重要である。

□ 石川産業労働部次長

高校生に対するキャリア教育やインターンシップについては、教育庁高校教育課などが取り組んでいるが、産業人材の確保という観点からも、就労観や職業観の醸成は、非常に重要である。秋田の企業や、秋田で働く意義を深く考えないままに、県外に就職する生徒もおり、在学中に知る機会を設ける取組を進めたい。

□ 齊藤輸送機産業振興室長

自動車部品については、自動車の安全基準が変わらなければ大きくは変わっていかないものであるが、安全基準を満たすものでは、複合材の低コスト製造法の研究開発に大学や機器メーカーを含む技術研究組合が取り組んでいるところである。航空機の材料であるが、自動車にも使用可能であり、今度、EV 化により軽量化が必要な自動車分野においても競争力を持てると考えている。

◎ 高柳委員

何かで 1 番を目指すということが重要ではないか。風力発電においては、県全体として全国 1 番を目指すという気持ちが伝わってきて良いと思う。

女性の活躍についても、企業の管理職の割合日本一や、経営者の女性割合日本一ということ県を挙げて目指してやってみたらどうか。

● 齊藤部会長

以上で議事の（2）と（3）を終了する。

本日の部会での質問や提言内容を踏まえた骨子（案）の作成について事務局にお願いする。

最後に、事務局から連絡事項があればお願いする。

□ 事務局

・ 次回の開催日程は 7 月 31 日（月）であること及び時間や会場等について説明

- ・新プランの方向性について、会議以外でも随時、事務局へ意見や提言をいただきたい旨を説明

## 8 閉会

### ● 齊藤部会長

第2回目からは、具体的な取組を含んだ骨子（案）について話をする。さらに活発な意見が出るように、よろしくお願いします。

—— 議事終了 ——